

(様式第 9)

国がん発 第 5 2 5 号
平成 2 4 年 1 0 月 5 日

関東信越厚生局長 殿

開設者名 理事長 堀田 知

独立行政法人国立がん研究センター中央病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 23 年度の業務
に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	123.3 人
--------	---------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第 13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	159人	105.4人	264.4人	看護補助者	7.1人	診療エックス線技師	人
歯科医師	1人	0人	1.0人	理学療法士	2.0人	臨床検査技師	65.0人
薬剤師	40人	18.5人	58.5人	作業療法士	1.0人	衛生検査技師	人
保健師	人	人	人	視能訓練士	0.8人	その他	人
助産師	人	人	人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看護師	541人	2.3人	543.3人	臨床工学技士	4.0人	医療社会事業従事者	7.3人
准看護師	人	人	人	栄養士	人	その他の技術員	17.1人
歯科衛生士	0人	0.8人	0.8人	歯科技工士	人	事務職員	112.7人
管理栄養士	6人	1.5人	7.5人	診療放射線技師	52.1人	その他の職員	71.5人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	497.3 人	0 人	497.3 人
1日当たり平均外来患者数	1059.1 人	14.1 人	1073.2 人
1日当たり平均調剤数	入院 508.5 + 外来 219.6 = 728.1 剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
経皮的肺がんラジオ派焼灼法 原発性又は転移性肺がん（切除が困難なものに限る）	1人
経皮的乳がんラジオ派焼灼法 早期乳がん	4人
経皮的腎がんラジオ派焼灼法 原発性又は転移性肺がん（切除が困難なものに限る）	0人
CT透視ガイド下経皮的骨腫瘍ラジオ派焼灼法 転移性骨腫瘍（既存の治療法により制御不良なものに限る）又は類骨腫（診断が確定したものに限る）	0人
パクリタキセル静脈内投与、カルボプラチン静脈内投与及びベバシズマブ静脈内投与の併用療法 （これらを三週間に一回投与するものに限る）による維持療法 再発卵巣がん、卵管がんまたは原発性腹膜がん	0人
神経症状を呈する脳放射線壊死に対する核医学診断及びベバシズマブ静脈内投与療法 （神経症状を呈する脳放射線壊死（脳腫瘍又は隣接する組織の腫瘍に対する放射線治療後のものに限る。）	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第二百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	特になし	取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	2人	・膿疱性乾癬	0人
・多発性硬化症	1人	・広範脊柱管狭窄症	0人
・重症筋無力症	8人	・原発性胆汁性肝硬変	11人
・全身性エリテマトーデス	4人	・重症急性膵炎	1人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壊死症	0人
・再生不良性貧血	11人	・混合性結合組織病	0人
・サルコイドーシス	17人	・原発性免疫不全症候群	0人
・筋萎縮性側索硬化症	0人	・特発性間質性肺炎	0人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	9人	・網膜色素変性症	0人
・特発性血小板減少性紫斑病	21人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	2人	・肺動脈性肺高血圧症	0人
・潰瘍性大腸炎	26人	・神経線維腫症	7人
・大動脈炎症候群	0人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	0人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	4人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	0人
・脊髄小脳変性症	1人	・ライゾーム病	0人
・クローン病	2人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	0人	・脊髄性筋萎縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	6人	・球脊髄性筋萎縮症	0人
・アミロイドーシス	3人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	0人
・後縦靭帯骨化症	6人	・肥大型心筋症	7人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウリス動脈輪閉塞症)	1人	・ミトコンドリア病	0人
・ウェゲナー肉芽腫症	0人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	0人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリーブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	0人	・黄色靭帯骨化症	0人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	5人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・センチネルリンパ節生検(H22)	・
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算(H22)	・
・乳がんセンチネルリンパ節加算(H22)	・
・人工括約筋を用いた尿失禁手術(H24)	・
・内視鏡的大腸粘膜下層剥離術(H24)	・
・CTガイド下気管支鏡検査加算(H24)	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	21回 / 月
部 検 の 状 況	部検症例数 28 例 / 部検率 8.2 %

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
がん性疼痛などの緩和のための病態生理に基づいた新たな治療法の開発	的場 元弘	緩和医療科	65,000,000	補 厚生労働科学研究費
がん疼痛治療の施設成績を評価する指標の妥当性を検証する研究	的場 元弘	緩和医療科	17,500,000	補 厚生労働科学研究費
がん患者の緩和療法の開発と多施設共同研究システムの構築に関する研究	的場 元弘	緩和医療科	28,800,000	補 厚生労働科学研究費
がん診療におけるチャイルドサポート	的場 元弘	緩和医療科	1,000,000	補 厚生労働科学研究費
がん対策に資するがん患者の療養生活の質の評価方法の確立に関する研究	的場 元弘	緩和医療科	1,000,000	補 厚生労働科学研究費
がん診療連携拠点病院の機能のあり方及び全国レベルのネットワークの開発に関する研究	的場 元弘	緩和医療科	1,000,000	補 厚生労働科学研究費
痛みの訴えが困難ながん患者に対する痛みの客観的評価に関する研究	的場 元弘	緩和医療科	195,000	補 日本学術振興会(文科省科研)
がん性疼痛におけるグリア細胞の役割～新しいがん性疼痛ストラテジーの作成～	齊藤 理	緩和医療科	1,170,000	補 日本学術振興会(文科省科研)
				計8

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

高齢者がん患者、在宅疼痛治療患者等における高齢者の特性に対応した治療法の選択等に係る研究	村上 敏史	緩和医療科	500,000	補	国立長寿医療研究センター
痛みの訴えが困難ながん患者に対する痛みの客観的評価に関する研究	村上 敏史	緩和医療科	130,000	補	日本学術振興会(文科省科研)
個別化がん医療を目指した新規バイオマーカー開発	津田均	病理科・臨床検査科	4,000,000	補	国立がん研究センター(がん研究開発費)
個別化がん医療を目指した新規バイオマーカー開発	薦幸治	病理科・臨床検査科	1,200,000	補	国立がん研究センター(がん研究開発費)
病理診断の均てん化と質的向上のための基盤・新規技術開発に関する研究	津田均	病理科・臨床検査科	6,000,000	補	国立がん研究センター(がん研究開発費)
病理診断の均てん化と質的向上のための基盤・新規技術開発に関する研究	九嶋亮治	病理科・臨床検査科	1,400,000	補	国立がん研究センター(がん研究開発費)
医療イノベーション推進を目指した国立がん研究センター等バイオバンクの設立と運用	津田均	病理科・臨床検査科	3,900,000	補	国立がん研究センター(がん研究開発費)
病理診断の付加価値増加による医療サービスの向上と診断均てん化	津田均	病理科・臨床検査科	46,400,000	補	国立がん研究センター(がん研究開発費)

計8

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

肉腫の病理診断の正確性向上、 および組織像と分子情報との対応	吉田朗彦	病理科・臨床検査科	1,400,000	補	国立がん研究センター (がん研究開発費)
難治性肺がんゲノム解析に基づく 治療標的・改善分子の同定、特に 臨床病理情報解析	蔦幸治	病理科・臨床検査科	450,000	補	国立がん研究センター (がん研究開発費)
高感受性悪性腫瘍に対する標準 治療確立のための多施設共同研 究	津田均	病理科・臨床検査科	1,100,000	補	国立がん研究センター (がん研究開発費)
術前化学療法後乳がん症例に対 するセンチネルリンパ節生検の標 準化に関する研究	津田均	病理科・臨床検査科	500,000	補	国立がん研究センター (がん研究開発費)
診断用機器及び診断方法の開発 に基づいたがん診断能向上に関 する研究	津田均	病理科・臨床検査科	6,000,000	補	厚生労働科学研究費
早期乳がんに対するラジオ波焼灼 療法の標準化に係る多施設共同 臨床研究	津田均	病理科・臨床検査科	1,500,000	補	厚生労働科学研究費
トリプルネガティブ乳がんに対する 創薬と治療の最適化	津田均	病理科・臨床検査科	4,000,000	補	厚生労働科学研究費
深部機能画像のための超音響画 像化技術の有用性検証	津田均	病理科・臨床検査科	1,000,000	補	厚生労働科学研究費

計8

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

高悪性度乳がんにおける腫瘍浸潤リンパ球の解析と治療反応性、予後予測因子としての意義	津田均	病理科・臨床検査科	1,300,000	補	日本学術振興会(文 科省科研)
病理形態とプロテオーム、ゲノム解析のとうごうによる卵巣明細胞腺がんの発生経路の解明と予後・治療効果予測診断のバイオマーカー同定	津田均	病理科・臨床検査科	3,000,000	補	がん研究振興財団
EGFR免疫組織化学検査における固定条件の影響および判定基準に関する検討	谷口浩和	病理科・臨床検査科	2,163,472	委	国立がん研究センター (第一三共)
デジタル病理の臨床応用検討 インテリジェンスデータベース構築基盤技術開発とその臨床応用検討	津田均	病理科・臨床検査科	11,275,000	委	国立がん研究センター (ソニー)
受託研究 Cobas 4800 JHPV test の臨床性能評価	津田均	病理科・臨床検査科	940,239	委	国立がん研究センター (ロシュダイアグノすティクス社)
難治性悪性腫瘍に対する標準治療確立の為の多施設共同研究	奥坂拓志	肝胆膵内科	28,800,000	補	国立がん研究センター (がん研究開発費)
切除不能胆道癌に対する治療法の確立に関する研究	奥坂拓志	肝胆膵内科	22,500,000	補	厚生労働科学研究費
膵がん切除例に対する補助療法の向上を目指した多施設共同研究	上野秀樹	肝胆膵内科	31,000,000	補	厚生労働科学研究費

計8

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

基礎と臨床の橋渡しのための研究	牛島俊和	国立がん研究センター研究所 エピゲノム解析分野	1,500,000	補	国立がん研究センター(がん研究開発費)
膵がんの本態解明と新規標的治療法の開発	青木一教	国立がん研究センター研究所 遺伝子免疫細胞医学研究分野	1,150,000	補	国立がん研究センター(がん研究開発費)
高度医療技術の効率化及び標準化の開発に関する研究	嘉山 孝正	国立がん研究センター	144,883,000	補	厚生労働科学研究費
がん患者に合併するうつ病の早期発見を目的とした簡易評価尺度の妥当性に関する検討	清水 研	中央病院精神腫瘍科	9,500,000	補	厚生労働科学研究費
安全で高精度な放射線治療を実現する体制の研究	伊丹純	放射線治療科	280,000	補	国立がん研究センター(がん研究開発費)
病院設置型加速器ホウ素中性子捕捉療法(BNCT)システムの開発	伊丹純	放射線治療科	28,042,000	補	国立がん研究センター(がん研究開発費)
悪性神経膠腫に対するTemozolomideの治療効果を増強した標準治療確立に関する研究	渋井壮一郎	脳脊髄腫瘍科	100,000	補	厚生労働科学研究費
放射線による認知機能障害を回避する転移性脳腫瘍の治療法に関する研究	嘉山孝正	中央病院	150,000	補	厚生労働科学研究費

計8

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

放射線治療を含む標準治療確立のための研究	伊藤 芳紀	放射線治療科	13,976,000	補	国立がん研究センター (がん研究開発費)
切除不能局所進行膵がんに対する標準的 化学放射線療法の確立に関する研究	伊藤 芳紀	放射線治療科	300,000	補	厚生労働科学研究費
頭頸部腫瘍に対する強度変調放射線 治療の確立と標準化のための臨床研 究	伊藤 芳紀	放射線治療科	300,000	補	厚生労働科学研究費
肛門扁平上皮癌に対する新規化 学放射線療法の確立	伊藤 芳紀	放射線治療科	200,000	補	厚生労働科学研究費
放射線治療期間短縮による治療 法の有効性と安全性に関する研究	伊藤 芳紀	放射線治療科	100,000	補	厚生労働科学研究費
小児がんに対する標準治療確立 のための多施設共同臨床試験	主任: 牧本 敦 分担研究者: 鈴木 茂伸	小児腫瘍科 眼腫瘍科	2,500,000	補	国立がん研究センター (がん研究開発費)
臨床試験研究	鈴木茂伸	眼腫瘍科	100,000	補	放射線医学総合研究所
高感受性悪性腫瘍に対する標準 的治療確立のための多施設共同 研究	飛内賢正	血液腫瘍科	10,000,000	補	国立がん研究センター (がん研究開発費)

計8

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

悪性リンパ腫に対する最適化されたモノクローナル抗体併用療法の開発による標準的治療法の確立	飛内賢正	血液腫瘍科	1,000,000	補	厚生労働科学研究費
分子基盤に基づく難治性リンパ系腫瘍の診断及び治療法の開発に関する研究	飛内賢正	血液腫瘍科	700,000	補	国立がん研究センター (がん研究開発費)
成人T細胞白血病リンパ腫に対するインターフェロン α とジドブジン併用療法の有用性の検証	飛内賢正	血液腫瘍科	1,500,000	補	厚生労働科学研究費
ATLの診療実態・指針の分析による診療体制の整備	飛内賢正	血液腫瘍科	500,000	補	厚生労働科学研究費
眼付属器MALTリンパ腫の全エクソンシーケンスによる全ゲノム解析	飛内賢正	血液腫瘍科	100,000	補	国立がん研究センター (がん研究開発費)
多発性骨髄腫の病態解明と分子基盤に基づく効果的な分子標的療法の確立に関する研究	渡辺 隆	血液腫瘍科	1,200,000	補	国立がん研究センター (がん研究開発費)
再発・難治性骨髄腫に対する至適分子標的療法の確立と生物学的治療予測因子の探索	渡辺 隆	血液腫瘍科	700,000	補	厚生労働科学研究費
進行期難治性B細胞リンパ腫に対する治癒を目指した自家末梢血幹細胞移植併用大量化学療法の確立に関する研究	渡辺 隆	血液腫瘍科	1,200,000	補	厚生労働科学研究費
					計8

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

難治性白血病に対する標準的治療法の確立に関する研究	小林幸夫	血液腫瘍科	6,350,000	補	国立がん研究センター (がん研究開発費)
成人難治性白血病におけるバイオマーカーに基づく層別化治療法の確立	小林幸夫	血液腫瘍科	500,000	補	国立がん研究センター (がん研究開発費)
眼付属器MALTリンパ腫の全エクソンシーケンスによる全ゲノム解析	小林幸夫	血液腫瘍科	100,000	補	国立がん研究センター (がん研究開発費)
術中MRIを用いた新規外科治療法の開発	成田善孝	脳脊髄腫瘍科	136,000,000	補	国立がん研究センター (がん研究開発費)
大量メソトレキサート療法時に生じるメソトレキサート排泄遅延に対してのグルカルピダーゼの臨床薬理および早期有効性・安全性検討試験	河本 博	小児腫瘍科	12,760,000	補	日本医師会 (治験推進研究事業)
センチネルリンパ節理論による頭頸部癌微小転移の解明と個別的治療法の開発	吉本世一	頭頸部腫瘍科	200,000	補	厚生労働科学研究費
支持療法の開発と標準化のための研究	浅井昌大	頭頸部腫瘍科	2,600,000	補	国立がん研究センター (がん研究開発費)
新しい革新的な診断法の開発のための研究	楠本昌彦	放射線診断科	4,420,000	補	国立がん研究センター (がん研究開発費)

計8

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

悪性胸膜中皮腫の病態の把握と診断法, 治療法の確立に関する研究	楠本昌彦	放射線診断科	3,500,000	補	厚生労働科学研究費
新たなIVRガイダンス画像としての経静脈的超音波法の開発	芝本健太郎	放射線診断科	910,000	補	日本学術振興会(文科省科研)
有効なIVR手技の開発と標準化のための多施設共同研究	荒井保明	放射線診断科	22,491,000	補	国立がん研究センター(がん研究開発費)
造血幹細胞移植の有効性と安全性向上のための薬剤のエビデンスの確立に関する研究	福田 隆浩	造血幹細胞移植科	36,000,000	補	厚生労働科学研究費
成人難治性造血器腫瘍に対する同種造血幹細胞移植療法の治療成績向上につながる基盤整備のための多施設共同研究	福田 隆浩	造血幹細胞移植科	12,000,000	補	厚生労働科学研究費
再発等の難治性造血器腫瘍に対する同種造血幹細胞移植を用いた効果的治療法確立に関する研究	山下 卓也	造血幹細胞移植科	17,500,000	補	厚生労働科学研究費
新しい内視鏡診断機器の臨床への用要とこれらを用いた診断精度の向上に関する調査研究	斎藤 豊	消化管内視鏡科(現内視鏡科)	39,000,000	補	厚生労働省科学研究費
早期消化管がんに対する特異的蛍光内視鏡の開発とその臨床応用に向けた研究	斎藤 豊	消化管内視鏡科(現内視鏡科)	2,983,000	補	がん研究開発費

計8

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

消化管悪性腫瘍に対する標準治療確立のための多施設共同研究	斎藤 豊	消化管内視鏡科(現内視鏡科)	2,500,000	補	がん研究開発費
大腸微小腺腫性ポリープに関する前向きコホート研究	大竹陽介	消化管内視鏡科(現内視鏡科)	3,510,000	補	文部科学省学術研究
早期胃がん内視鏡切除症例のWebを用いたがん登録システムによる前向きがん登録に関する研究	小田 一郎	消化管内視鏡科(現内視鏡科)	15,000,000	補	厚生労働省科学研究費
未分化型早期胃癌に対する内視鏡切除の有効性および安全性に関する多施設共同研究	小田 一郎	消化管内視鏡科(現内視鏡科)	300,000	補	厚生労働省科学研究費
基礎と臨床の橋渡しのための研究	中島 健	消化管内視鏡科(現内視鏡科)	4,000,000	補	国立がん研究センター(がん研究開発費)
ポリープ切除の大腸がん予防に及ぼす効果の評価と内視鏡検査間隔の適正化に関する前向き臨床試験	松田 尚久	消化管内視鏡科(現内視鏡科)	9,256,000	補	厚生労働省科学研究費
離島をモデルとした新しい対策型大腸がん検診システムの構築と実現に向けた研究-新島STUDY	松田 尚久	消化管内視鏡科(現内視鏡科)	13,200,000	補	厚生労働省科学研究費
大腸微小腺腫性ポリープに関する前向きコホート研究	松田 尚久	消化管内視鏡科(現内視鏡科)	105,000	補	文部科学省 学術研究 助成基金助成金

計8

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

がんナノテクノロジー研究プラン	角川康夫	消化管内視鏡科(現内視鏡科)	4,000,000	補	国立がん研究センター (がん研究開発費)
大腸病変検出における大腸カプセルPC-101の臨床的有用性の検討	角川康夫	消化管内視鏡科(現内視鏡科)	7,333,147	委	受託研究:ギブソイメージング(株)
DNAチップによるがんの非侵襲的早期発見法の実用化	角川康夫	消化管内視鏡科(現内視鏡科)	2,000,000	補 委	NEDO助成事業
計算解剖モデルに基づく診断支援	土田敬明	呼吸器内視鏡科(現内視鏡科)	500,000	補	文部科学省科学研究費

計4

合計84

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Med Oncol	A retrospective study of the impact of age on patterns of care for elderly patients with metastatic breast cancer.	Hashimoto K et al	乳腺・腫瘍内科
Ann Oncol	Fc γ R2A and 3A polymorphisms predict clinical outcome of trastuzumab in both neoadjuvant and metastatic settings in patients with HER2-positive breast cancer.	Tamura K et al	乳腺・腫瘍内科
Ann Oncol	Phase II study of S-1, an oral fluoropyrimidine, in patients with advanced or recurrent cervical cancer.	Katsumata N et al	乳腺・腫瘍内科
Eur J Dermatol	Efficacy of taxane regimens in patients with metastatic angiosarcoma.	Hirata T et al	乳腺・腫瘍内科
Ann Oncol	Compliance with Good Clinical Practice in Oncology Registration Trials in Japan.	Yonemori K et al	乳腺・腫瘍内科
Cancer Chemother Pharmacol	Second platinum therapy in patients with uterine cervical cancer previously treated with platinum chemotherapy.	Tanioka M et al	乳腺・腫瘍内科
Invest New Drugs	The notorious "drug lag" for oncology drugs in Japan.	Yonemori K et al	乳腺・腫瘍内科
J Cancer Res Clin Oncol	Second-line chemotherapy in patients with primary unknown cancer.	Ono M et al	乳腺・腫瘍内科
Ann Surg Oncol	Contrasting Prognostic Implications of Platelet-Derived Growth Factor Receptor- β and Vascular Endothelial Growth Factor Receptor-2 in Patients with Angiosarcoma.	Yonemori K et al	乳腺・腫瘍内科
Breast Cancer Res Treat	First-line bevacizumab in combination with weekly paclitaxel for metastatic breast cancer: efficacy and safety results from a large, open-label, single-arm Japanese study.	Fujiwara Y et al	乳腺・腫瘍内科
Eur Respir J	Efficacy of pleurodesis for malignant pleural effusions in breast cancer patients.	Hirata T et al	乳腺・腫瘍内科
Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol	Use of squamous cell carcinoma antigen as a biomarker of chemotherapy response in patients with metastatic cervical carcinoma.	Hashimoto K et al	乳腺・腫瘍内科

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 論文発表等の実績

Cancer Chemother Pharmacol	Phase I and pharmacokinetic study of nab-paclitaxel, nanoparticle albumin-bound paclitaxel, administered weekly to Japanese patients with solid tumors and metastatic breast cancer.	Ando M et al	乳腺・腫瘍内科
Clin Breast Cancer	Randomized phase II study of primary systemic chemotherapy and trastuzumab for operable HER2 positive breast cancer.	Fujiwara Y et al	乳腺・腫瘍内科
Cancer Sci	Outcomes of Japanese breast cancer patients treated with pre- and post-operative anastrozole or tamoxifen.	Fujiwara Y et al	乳腺・腫瘍内科
Pharm Med	An analysis of guidance for proper usage documents for oncology drugs in Japan.	Yonemori K et al	乳腺・腫瘍内科
Hepatology Research, 2011 Jun, 41(6):542-552.	A phase I and pharmacokinetic clinical trial of oral administration of the acyclic retinoid NIK-333.	Okusaka T, Ueno H, Ikeda M, Morizane C.	肝胆膵内科
Invest New Drug, 2011 Dec 21. [Epub ahead of print], in press.	A randomized phase II trial of intra-arterial chemotherapy using SM-11355 (Miriplatin) for hepatocellular carcinoma.	Okusaka T, Kasugai H, Ishii H, Kudo M, Sata M, Tanaka K, Shioyama Y, Chayama K, Kumada H, Yoshikawa M, Seki T, Saito H, Hayashi N, Shiratori K, Okita K, Sakaida I, Honda M, Kusumoto Y, Tsutsumi T, Sakata K.	肝胆膵内科
Jpn J Clin Oncol, 2011 Aug, 41(8):953-958.	Multicenter Phase II Study of Gemcitabine and S-1 Combination Therapy (GS therapy) in Patients with Metastatic Pancreatic Cancer.	Ueno H, Okusaka T, Furuse J, Yamao K, Funakoshi A, Boku N, Ohkawa S, Yokosuka O, Tanaka K, Moriyasu F, Nakamori S, Sato T.	肝胆膵内科
Pancreas, 2011 Apr, 40(3):415-421.	Construction and validation of a prognostic index for patients with metastatic pancreatic adenocarcinoma.	Morizane C, Okusaka T, Morita S, Tanaka K, Ueno H, Kondo S, Ikeda M, Nakachi K, Mitsunaga S.	肝胆膵内科

計8

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 論文発表等の実績

Nat Genet, 2011 May, 43(5): 464-469.	High-resolution characterization of a hepatocellular carcinoma genome.	Totoki Y, Tatsuno K, Yamamoto S, Arai Y, Hosoda F, Ishikawa S, Tsustumi S, Totsuka H, Shirakihara T, Sakamoto S, Ojima H, Shimada K, Kosuge T, Okusaka T, Kato K, Kusuda J, Yoshida T, Aburatani H, Shibata T.	肝胆膵内科
Horizons in Cancer Research. 2011 Vol.46, in press. Nova Science Publishers, Inc. Japan.	Classification of pancreatic cancer: validation using nation-wide registry of Japan pancreas society.	Egawa S, Toma H, Ohigashi H, Okusaka T, Nakao A, Hatori T, Maguchi H, Yanagisawa A, Tanaka M.	肝胆膵内科
Cancers, 2011, 3(2):2243-2254.	Review: Targeted therapy for biliary tract cancer.	Furuse J, Okusaka T.	肝胆膵内科
Jpn J Clin Oncol, 2011 Jun, 41(6):770-775.	Transcatheter arterial infusion chemotherapy with a fine-powder formulation of cisplatin for advanced hepatocellular carcinoma refractory to transcatheter arterial chemoembolization.	Iwasa S, Ikeda M, Okusaka T, Ueno H, Morizane C, Nakchi K, Mitusnaga S, Kondo S, Hagihara A, Shimizu S, Satake M, Arai Y.	肝胆膵内科
Eur J Cancer, 2011 Sep, 47(14):2117-2127.	Phase III study of sorafenib after transarterial chemoembolization in Japanese and Korean patients with unresectable hepatocellular carcinoma.	Kudo M, Imanaka K, Chiba N, Nakachi K, Tak W-Y, Takayama T, Yoon J-H, Hori T, Kumada H, Hayashi N, Kaneko S, Tsubouchi H, Suh DJ, Furuse J, Okusaka T, Tanaka K, Matsui O, Wada M, Yamaguchi I, Ohya T, Meinhardt G, Okita K.	肝胆膵内科
Critical Reviews in Oncol Hematol, 2011 Oct, 80(1):31-39.	Lessons from the comparison of two randomized clinical trials using gemcitabine and cisplatin for advanced biliary tract cancer.	Furuse J, Okusaka T, Bridgewater J, Taketsuna M, Wasan H, Koshiji M, Valle J.	肝胆膵内科

計6

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 論文発表等の実績

Int J Clin Oncol. 2012 Jan 5 [Epub ahead of print]	Clinical impact of c-Met expression and its gene amplification in hepatocellular carcinoma.	Kondo S, Ojima H, Tsyda H, Hashimoto J, Morizane C, Ikeda M, Ueno H, Tamura K, Shimada K, Kanai Y, Okusaka T.	肝胆膵内科
J Proteomics, 2012 Feb 16, 75(5):1577-1589.	Macrophage-capping protein as a tissue biomarker for prediction of response to gemcitabine treatment and prognosis in cholangiocarcinoma.	Morofuji N, Ojima H, Onaya H, Okusaka T, Shimada K, Sakamoto K, Esaki M, Nara S, Kosuge T, Asahina D, Ushigome M, Hiraoka N, Nagino M, Kondo T.	肝胆膵外科
Biol Blood Marrow Transplant.	Comparison of allogeneic hematopoietic cell transplantation and chemotherapy in elderly patients with non-M3 acute myelogenous leukemia in first complete remission.	Kurosawa S	造血幹細胞移植科
Blood	A Markov decision analysis of allogeneic hematopoietic cell transplantation versus chemotherapy in patients with acute myeloid leukemia in first remission.	Kurosawa S	造血幹細胞移植科
Biol Blood Marrow Transplant.	Feasibility of reduced-intensity cord blood transplantation as salvage therapy for graft failure: results of a nationwide survey of adult patients.	Waki F	造血幹細胞移植科
J Immunother.	Phase 1 trial of Wilms tumor 1 (WT1) peptide vaccine and gemcitabine combination therapy in patients with advanced pancreatic or biliary tract cancer.	Kaida M	造血幹細胞移植科
Best Pract Res Clin Haematol.	Adoptive immunotherapy with virus-specific T cells.	Fuji S	造血幹細胞移植科
臨床血液	Management of viral infections after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation	福田隆浩	造血幹細胞移植科
臨床血液	Comparison of post-remission strategies in elderly patients with acute myeloid leukemia in first complete remission.	黒澤彩子	造血幹細胞移植科
Anesthesiology	Usefulness of olanzapine as an adjunct to opioid treatment and for the treatment of neuropathic pain	Kazuhiro Torigoe (Motohiro Matoba)	薬剤部 (緩和医療科)

計9

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 論文発表等の実績

Lung Cancer, 72(3): 309-315, 2011	Frequent ALK rearrangement and TTF-1/p63 co-expression in lung adenocarcinoma with signet-ring cell component	Akihiko Yoshida	病理科・臨床検査科
Lung Cancer, 73(1): 45-50, 2011	The utility of mutation-specific antibodies in detecting epidermal growth factor receptor mutations and in predicting response to tyrosine kinase inhibitor therapy in lung adenocarcinoma	Koji Tsuta	病理科・臨床検査科
J. Thorac. Oncol., 6(7): 1190-1199, 2011	Utility of 10 immunohistochemical markers including novel markers (Desmocollin-3, Glypican 3, S100A2, S100A7, and Sox-2) for differential diagnosis of squamous cell carcinoma from adenocarcinoma of the lung	Koji Tsuta.	病理科・臨床検査科
Am. J. Surg. Pathol., 35(8): 1226-1234, 2011	Comprehensive histologic analysis of ALK-rearranged lung carcinomas	Akihiko Yoshida	病理科・臨床検査科
Mod. Pathol., 24(8): 1146-1155, 2011	Gene amplification and protein overexpression of MET are common events in ovarian clear-cell adenocarcinoma: their roles in tumor progression and prognostication of the patient	Hitoshi Tsuda	病理科・臨床検査科
J. Pathol., 225(2): 189-194, 2011.	PIK3CA mutation is an early event in the development of endometriosis-associated ovarian clear cell adenocarcinoma	Hitoshi Tsuda	病理科・臨床検査科
J. Thorac. Oncol., 6(10): 1677-1686, 2011	Bright-field dual color chromogenic in situ hybridization for the diagnosis of EML4/ALK-positive lung adenocarcinomas	Akihiko Yoshida	病理科・臨床検査科
Mod. Pathol., 25(1): 122-130, 2012	Accumulative copy number increase of MET gene drives the tumor development and histological progression in a subset of ovarian clear-cell adenocarcinoma	Hitoshi Tsuda	病理科・臨床検査科
J. Thorac. Oncol. 7(2):331-339, 2012	c-Met and phosphor-Met expressions and MET gene copy alterations in non-small cell lung carcinomas	Koji Tsuta	病理科・臨床検査科
Am. J. Surg. Pathol., 36(3): 423-431, 2012	MDM2 and CDK4 Immunohistochemical Coexpression in High-Grade Osteosarcoma: Correlation with a Dedifferentiated Subtype	Akihiko Yoshida	病理科・臨床検査科

計10

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 論文発表等の実績

医学検査、61(3): 562-566, 2012	蛍光顕微鏡画像解析装置を用いたHER-2 FISH検査結果判定の試み	若井進、古田耕	病理科・臨床検査科
J Radiat Res 53:588-593, 2012	Impact of concurrent chemotherapy on definitive radiotherapy for women with FIGO IIIb cervical cancer	Y Kuroda	放射線治療科
Int J Radiat Oncol Biol Phys 84:59-65, 2012.	106-Ruthenium plaque therapy (RTP) for retinoblastoma	N Murakami	放射線治療科
J Cancer Res Clin Oncol 137:1239-1247, 2012	Effect of chemotherapy on survival after whole brain radiation therapy for brain metastases: a single-center retrospective analysis	H Mayahara	放射線治療科
J Radiat Res 52:75-81, 2011	Relation between lineal energy distribution and relative biological effectiveness for photon beams according to the microdosimetric kinetic model.	H Okamoto	放射線治療科
Ophthalmology	Selective ophthalmic arterial injection therapy for intraocular retinoblastoma: The long-term prongosis.	Shigenobu Suzuki	眼腫瘍科
Blood	Peripheral T-cell lymphoma, not otherwise specified: a report of 340 cases from the International Peripheral T-cell Lymphoma Project. Blood 2011; 117:3402-8	Weisenburger DD, <u>Tobinai K</u> , et al.:	血液腫瘍科
Ann Oncol	CD5-positive diffuse large B-cell lymphoma: a retrospective study in 337 patients treated by chemotherapy with or without rituximab. Ann Oncol 2011;22:1601-7	Miyazaki K, <u>Kobayashi Y</u> , et al.:	血液腫瘍科
Leuk Lymphoma	Follicular lymphoma with marked monocytoid or plasmacytoid differentiation and tiny or indistinct follicles: a case study of 4 patients. Leuk Lymphoma 2011;52:804-13.	Yamada K, <u>Nomoto J</u> , <u>Maruyama D</u> , <u>Watanabe T</u> , <u>Kobayashi Y</u> , <u>Tobinai K</u> , et al.:	血液腫瘍科

計10

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 論文発表等の実績

Leuk Res	A phase I study to assess the safety, pharmacokinetics and efficacy of barasertib (AZD1152), an Aurora B kinase inhibitor, in Japanese patients with advanced acute myeloid leukemia. Leuk Res 2011;35:1384-9	Tsuboi K, <u>Watanabe T</u> , <u>Tobinai K</u> , et al.:	血液腫瘍科
Cancer Sci	A phase I trial of LY2469298, an Fc-engineered anti-CD20 monoclonal antibody, in Japanese patients with previously treated follicular lymphoma. Cancer Sci 2011;102:432-8	<u>Tobinai K</u> , <u>Kobayashi Y</u> , <u>Watanabe T</u> , <u>Maruyama D</u> , et al.:	血液腫瘍科
Jpn J Clin Oncol	Melphalan-prednisolone, and vincristine-doxorubicin-dexamethasone chemotherapy followed by prednisolone/interferon maintenance therapy for multiple myeloma: Japan Clinical Oncology Group Study, JCOG0112. Jpn J Clin Oncol 2011;41:586-9	Chou T, <u>Tobinai K</u> , et al.:	血液腫瘍科
Cancer Sci	Feasibility and pharmacokinetic study of bendamustine hydrochloride in combination with rituximab in relapsed or refractory aggressive B cell non-Hodgkin's lymphoma. Cancer Sci 2011;102:1687-92	Ogura M, <u>Watanabe T</u> , <u>Tobinai K</u> , et al.:	血液腫瘍科
Jpn J Clin Oncol	Molecular target therapy in hematological malignancy: front-runners and prototypes of small molecule and antibody therapy. Jpn J Clin Oncol 2011;41:157-64	Kobayashi Y	血液腫瘍科
Blood	Enteropathy-associated T-cell lymphoma: clinical and histology findings from the International Peripheral T-cell Lymphoma Project. Blood 2011;118:148-55	Delabie J, <u>Tobinai K</u> , et al.:	血液腫瘍科
J Clin Oncol	Phase II/III study of rituximab plus cyclophosphamide, doxorubicin, vincristine and prednisolone (R-CHOP) compared to two-week R-CHOP in untreated indolent B-cell non-Hodgkin lymphoma: Japan Clinical Oncology Group (JCOG) 0203 trial. J Clin Oncol 2011;29:3990-8	<u>Watanabe T</u> , <u>Tobinai K</u> , et al.:	血液腫瘍科

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 論文発表等の実績

Cancer Sci	Phase I and II study of azacitidine in Japanese patients with myelodysplastic syndromes. Cancer Sci 2011;102:1680-6	Uchida T, <u>Kobayashi Y</u> , <u>Tobinai K</u> , et al.:	血液腫瘍科
Expert Rev Anticancer Ther	Third annual forum on T-cell lymphoma. Expert Rev Anticancer Ther 2011;11:693-5.	Tobinai K	血液腫瘍科
Eur J Haematol	Bulky disease has an impact on outcomes in primary diffuse large B-cell lymphoma of the breast: a retrospective analysis at a single institution. Eur J Haematol 2011;87:434-40	<u>Fukuhara S</u> , <u>Watanabe T</u> , <u>Maruyama D</u> , <u>Kobayashi Y</u> , <u>Tobinai K</u> , et al.:	血液腫瘍科
Blood	Peripheral T-cell lymphoma. Blood 2011;117:6756-67	Foss FM, <u>Tobinai K</u> , et al.:	血液腫瘍科
Cancer Sci	Relevance of monitoring metabolic reduction in patients with relapsed or refractory follicular and mantle cell lymphoma receiving bendamustine: a multicenter study. Cancer Sci 2011;102:414-8	Tateishi U, <u>Tobinai K</u> , et al.:	血液腫瘍科
Cancer Sci	Rituximab monotherapy with eight weekly infusions for relapsed patients with indolent B-cell non-Hodgkin lymphoma mostly pretreated with rituximab: a multicenter phase II study. Cancer Sci 2011;102:1698-705	<u>Tobinai K</u> , et al.:	血液腫瘍科
Cancer Sci	Phase I study of inotuzumab ozogamicin (CMC-544) in Japanese patients with follicular lymphoma pretreated with rituximab-based therapy. Cancer Sci 2011;101:1840-5.	Ogura M, <u>Tobinai K</u> , et al.:	血液腫瘍科
Cancer Sci	Phase I trial of gemtuzumab ozogamicin in intensive combination chemotherapy for relapsed or refractory adult acute myeloid leukemia (AML): Japan Adult Leukemia Study Group (JALSG)-AML206 study.. Cancer Sci 2011;102:1358-65	Usui N, <u>Kobayashi Y</u> , et al.:	血液腫瘍科
Jpn. J. Clin. Oncol	Lymphoma Study Group of JCOG. Jpn J Clin Oncol. 2012;42:85-95	Tsukasaki K, <u>Tobinai K</u> , et al.:	血液腫瘍科

計8

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 論文発表等の実績

Ann Oncol	Phase III trial of CHOP-21 versus CHOP-14 for aggressive non-Hodgkin lymphoma: final results of the Japan Clinical Oncology Group Study, JCOG 9809. Ann Oncol 2011;22:1382-91	Ohmachi K, <u>Tobinai K</u> , <u>Kobayashi Y</u> , et al.:	血液腫瘍科
Int J Hematol	Lack of non-hematological cross intolerance of dasatinib to imatinib in imatinib-intolerant patients with Philadelphia chromosome positive chronic myeloid leukemia or acute lymphatic leukemia: a retrospective safety analysis. Int J Hematol 2011;93:745-9.	<u>Kobayashi Y</u> , et al.:	血液腫瘍科
AJR Am J Roentgenol	Phase I/II study of transjugular transhepatic peritoneovenous venous shunt, a new procedure to manage refractory ascites in cancer patients: Japan Interventional Radiology in Oncology Study Group 0201	荒井保明	放射線診断科
Am J Clin Oncol	Phase II Clinical Study on Stent Therapy for Unresectable Malignant Colorectal Obstruction (JIVROSG-0206)	稲葉吉隆 (愛知県がんセンター)	放射線診断科
Am J Clin Oncol	Japan Interventional Radiology in Oncology Study Group (JIVROSG). Phase I/II study of hepatic arterial infusion chemotherapy with gemcitabine in patients with unresectable intrahepatic cholangiocarcinoma (JIVROSG-0301)	稲葉吉隆 (愛知県がんセンター)	放射線診断科
Cardiovasc Intervent Radiol	Radiological insertion of Denver peritoneovenous shunts for malignant refractory ascites: a retrospective multicenter study (JIVROSG-0809)	菅原俊祐	放射線診断科
World J Surg Oncol	Feasibility of externalized peritoneovenous shunt (EPVS) for malignant ascites	徳江浩之	放射線診断科

計7

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 論文発表等の実績

J Vasc Interv Radiol	Anchoring system-assisted coil tract embolization: a new technique for management of arterial bleeding associated with percutaneous nephrostomy	徳江浩之	放射線診断科
Eur J Radiol	Evaluation of hypervascular hepatocellular carcinoma in cirrhotic liver: Comparison of different concentrations of contrast material with multi-detector row helical CT - A prospective randomized study	祖父江慶太郎	放射線診断科
Eur J Radiol	MR imaging of hepatic metastasis in patients with malignant melanoma: Evaluation of suspected lesions screened at contrast-enhanced CT	祖父江慶太郎	放射線診断科
Eur Radiol	Gd-EOB-DTPA-enhanced 3.0 T MR imaging: quantitative and qualitative comparison of hepatocyte-phase images obtained 10 min and 20 min after injection for the detection of liver metastases from colorectal carcinoma	祖父江慶太郎	放射線診断科
Psycho oncology	Impaired mental health among the bereaved spouses of cancer patients.	浅井真理子	精神腫瘍科
Ann Oncol	Clinical bio psychosocial risk factors for depression in lung cancer patients: a comprehensive analysis using data from the Lung Cancer Database Project.	清水研	精神腫瘍科
Psycho oncology	Usefulness of pharmacist-assisted screening and psychiatric referral program for outpatients with cancer undergoing chemotherapy	清水研	精神腫瘍科
Journal of Pain and Symptom Management	Treatment Response to Psychiatric Intervention and Predictors of Response Among Cancer Patients with Adjustment Disorders	清水研	精神腫瘍科
Jpn J Cancer Chemother 38(7):1107-1111, 2011) Concurrent chemoradiotherapy (CCRT)後の salvage surgeryの問題点	吉本世一	頭頸部腫瘍科

計9

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 論文発表等の実績

頭頸部外科 21(2):123-126, 2011	頭頸部外科医の育て方	吉本世一	頭頸部腫瘍科
頭頸部癌 37(3): 359-361, 2011	本邦での頭頸部癌におけるセンチネルリンパ節生検の現状	吉本世一	頭頸部腫瘍科
Auris Nasus Larynx 2011 May 16.	Sentinel node biopsy for oral and laryngopharyngeal squamous cell carcinoma: a retrospective study of 177 patients in Japan.	Yoshimoto S, Hasegawa Y, Matsuzuka T, Shiotani A, Takahashi K, Kohno N, Yoshida T, Kitano H	頭頸部腫瘍科
chemoradiotherapy, Radiotherapy and Oncology 2011	Multicenter phase II study Of an opioid ㄤbased pain control program for head and neck cancer patients receiving	Zenda S. Asai M. et al:	放射線治療科
Microsurgery 628-631, 2011	Thoracoacromial vessels as recipients for head and neck reconstruction and cause of vascular complications,	Onoda S. Asai M. et al:	頭頸部腫瘍科
Digestive Endoscopy	Role of endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration (EUS-FNA) for diagnosis of solid pancreatic masses.	Yoshinaga S	消化管内視鏡科 (現内視鏡科)
J Gastroenterol Hepatol	Comparing endoscopic submucosal dissection with transanal resection for non-invasive rectal tumor: A retrospective study.	Kiriyama S	消化管内視鏡科 (現内視鏡科)
Surg Endosc	Treatment strategy for recurrent or residual colorectal tumors after endoscopic resection.	Sakamoto T	消化管内視鏡科 (現内視鏡科)
Digestive Endoscopy	Comparison of magnifying chromoendoscopy and narrow-band imaging in estimation of early colorectal cancer invasion depth: a pilot study	Sakamoto T	消化管内視鏡科 (現内視鏡科)
Techniques in Gastrointestinal Endoscopy	Macroscopic estimation of submucosal invasion in the colon.	Matsuda T	消化管内視鏡科 (現内視鏡科)
Digestive Endoscopy	Comparative evaluation of endoscopic factors from conventional colonoscopy and narrow-band imaging of colorectal lesions.	Ikematsu H	消化管内視鏡科 (現内視鏡科)
Digestive Endoscopy	Responsive insertion technology.	Saito Y	消化管内視鏡科 (現内視鏡科)

計12

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 論文発表等の実績

Cancer Sci.	Risk of lymph node metastasis in patients with pedunculated type early invasive colorectal cancer: A retrospective multicenter study.	Matsuda T	消化管内視鏡科 (現内視鏡科)
BMC Gastroenterol	Small invasive colon cancer with systemic metastasis: A case report.	Matsumoto M	消化管内視鏡科 (現内視鏡科)
Diagn Ther Endosc.	Prospective Case Study on Characterization of Colorectal Adenomas Comparing AFI with NBI.	Suzuki H	消化管内視鏡科 (現内視鏡科)
Diagn Ther Endosc.	Pilot study on clinical effectiveness of autofluorescence imaging for early gastric cancer diagnosis by less experienced endoscopists.	Tada K	消化管内視鏡科 (現内視鏡科)
Diseases of the Colon&Review	Learning Curve Associated With Colorectal Endoscopic Submucosal Dissection for Endoscopists Experienced in Gastric Endoscopic Submucosal Dissection.	Sakamoto T	消化管内視鏡科 (現内視鏡科)
World J Gastrointest Endosc	Endoscopic ultrasound using ultrasound probes for the diagnosis of early esophageal and gastric cancers.	Yoshinaga S	消化管内視鏡科 (現内視鏡科)
Techniques in Gastrointestinal Endoscopy.	Macroscopic Estimation of Submucosal Invasion - Stomach.	Oda I	消化管内視鏡科 (現内視鏡科)
Gastrointestinal Endoscopy	New closure technique for large mucosal defects after endoscopic submucosal dissection of colorectal tumors (with video)	Otake Y	消化管内視鏡科 (現内視鏡科)
胃と腸	EMR/ESD後の多発胃癌のサーベイランス	中島健	消化管内視鏡科 (現内視鏡科)
消化器内視鏡	達人の診断テクニック 拡大内視鏡を使った早期癌の深達度診断 ークリスタルバイオレット染色の適応とコツ	斎藤豊	消化管内視鏡科 (現内視鏡科)
日本臨牀	大腸癌の検査・診断 大腸癌の内視鏡検査・診断 早期癌の深達度診断の要点	坂本琢	消化管内視鏡科 (現内視鏡科)
Medical Tribune	標準化に有効な大腸ESDの工夫を検証	斎藤豊	消化管内視鏡科 (現内視鏡科)

計12

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 論文発表等の実績

大腸癌Frontier	大腸ESD一手技のコツとピットフォール	斎藤豊	消化管内視鏡科 (現内視鏡科)
内科	大腸癌の最新事情—防止・治療を目指して《スクリーニングの戦略》大腸カプセル内視鏡	斎藤豊	消化管内視鏡科 (現内視鏡科)
臨床外科	Expertに学ぶ画像診断8 画像強調観察:AFI(下部)	松田尚久	消化管内視鏡科 (現内視鏡科)
INTESTINE	大腸villous tumorの時代的変遷	山田真善	消化管内視鏡科 (現内視鏡科)
胃と腸	Barrett食道癌と食道・胃接合部癌の時代的変遷とH.pylori感染	山田真善	消化管内視鏡科 (現内視鏡科)
消化管医学	大腸カプセル内視鏡における新しい腸管前処置方法—本邦におけるパイロット試験の報告—	角川康夫	消化管内視鏡科 (現内視鏡科)
大腸癌FRONTIER	大腸癌のスクリーニングと治療における大腸内視鏡の医療経済学	関口正宇	消化管内視鏡科 (現内視鏡科)

計8

計118

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 荒井 保明
管理担当者氏名	医療安全管理室長：中馬広一 看護部長：那須和子、医事室長：出田剛一 薬剤部長：林憲一 総務課長：中澤敏和、人事部長：高見功

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約 及び入院診療計画書		総務部 医事室 看護部 放射線科	診療に関する患者記録は全て(入院外来問わず)一患者一ファイル方式で管理。 (1) 診療録等は永久保存 (2) 内視鏡フィルム、10年保存 (3) フィルム(内視鏡フィルム除)5年保存 (4) 病理、細胞診プレパレート、20年保存
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	人事部	保管を管轄する各部門が、部門システムあるいは台帳等により管理
	高度の医療の提供の実績	医事室	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務部 がん対策企画課	
	高度の医療の研修の実績	総務部 がん対策企画課	
	閲覧実績	総務部、医事室	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事室	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十の体制第一項保各の号状及び第九条の二十三第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室	<ul style="list-style-type: none"> ・保管を管轄する各部門が、部門システムあるいは議事録や台帳保管等により管理。規程順守による体制維持に努めている。 ・平成24年7月より感染制御室が設置され、医療安全・院内感染の管理を共に強化。 院内感染は、H23年度においては、専従看護師が看護部長室付であり、部屋も院内感染と医療安全管理室とで共有していた。 現在は、感染制御室に専任の院内感染対策を行う者がおり、関連業務を行っている。
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御室	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理室	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室	

		保管場所	分類方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	医療安全管理室	・保管を管轄する各部門が、部門システムあるいは議事録や台帳保管等により管理。規程順守による体制維持に努めている。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療安全管理室	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療安全管理室	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理室	
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	医療安全管理室	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理室	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全管理室	
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理室			

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	総務課長・医事室長
閲覧担当者氏名	総務班長・医事班長
閲覧の求めに応じる場所	総務部総務課・財務経理部医事室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	90件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	17件
	地方公共団体	延	0件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	97.7%	算定期間	平成23年4月1日～平成24年3月31日
算出根拠	A：紹介患者の数		8,717人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		5,785人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		429人
	D：初診の患者の数		9,488人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：1) インフォームド・コンセントについて2) 意識改革及び啓発を図るための教育・研修及び講演会について3) アクシデント・インシデント報告について4) 1から3を遂行するための組織及び体制について明記している（平成23年4月1日改訂）。</p> <p>医療安全管理体制の確立・医療安全管理のための具体的方策及び医療事故発生時の対応方法等について、医療事故等防止安全管理規程（平成24年4月1日改訂）を定め、医療事故等防止対策委員会・医療安全管理部会を設置している。各診療科・各看護単位・各部門にリスクマネージャーを置き、医療事故等事例の報告内容の把握・検討等を行い、再発防止に努めている。</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・ 活動の主な内容：医療安全管理室へ報告される医療事故等事例について、医療安全管理部会で原因分析や再発防止対策、業務改善事項の検討をしている。部会での検討事項を毎月開催している医療事故等防止対策委員会に報告後、決定事項を医療安全管理部会院長（医療安全担当副院長）から各部署のリスクマネージャーに伝達し、所属職員に伝達・周知徹底を図っている。</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p><全職員対象>H23年11月30日 複眼的視点からものを見る 1234名（ビデオ上映・閲覧を含む）</p> <p><全職員対象>H24年2月28日 患者トラブルの原因とこれからの患者対応 1104名（ビデオ上映・閲覧を含む）</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リスクマネージャー・サブリスクマネージャー会議での説明・指示・伝達 ・ 医療安全ニュースの発行 ・ 職員全員参加の研修会の実施 ・ 医療安全ポケットマニュアルの年 1 回の更新 	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (2 名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1 名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
<p>・ 所属職員： 専任 (2) 名 兼任 (7 5) 名・・・但し、院長除き副院長を含む</p> <p>・ 活動の主な内容：医療安全管理に関する情報収集・情報提供、インシデント・アクシデント実態把握・分析・再発防止対策の立案・広報、医療安全に関する職員教育</p>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

(様式第 13-2)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容： 感染対策の基本的な考え方、感染対策体制の整備（感染制御室、院内感染対策委員会の設置と専従体制について）、職員に対する研修の基本方針、感染発生状況報告に関する基本方針、発生時の対応に関する方針、患者等に対する当該指針の閲覧に関する方針、その他、感染対策推進のために必要な方針について策定している。H24.7月感染制御室設置に伴い改訂を行った。</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：院内感染発生動向の監視と効率的な院内感染対策が実施できるよう感染制御室および感染対策チームの活動支援を行う。感染制御室、感染対策チームで検討した課題や提案されたことなどを審議、決定する。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3 回
<p>・ 研修の主な内容：①「感染対策の外部評価」DVD上映会4回含み644名 ②「院内感染対策の基本」273名 ③「結核を中心とした医療関連感染対策」DVD上映会5回含み655名 1度も受けていない職員および所属責任者に注意喚起を行い、DVD借用して受けてもらった。 手指衛生、個人防護用具トレーニング計7回 370名</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>H24.7 感染制御室設置し、感染発生時の報告をすべて1か所に集約した。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： 職員のインフルエンザ、感染性胃腸炎発生時の対応と就業制限期間を決定した。これらの事項については院内HPへの掲載を全職員へ文書で配布を行った。実施にあたっては職員診察を担当する総合内科と検討し、決定した。この周知により、職員のインフルエンザ発生時報告が院内感染管理者に集約することができた。</p>	

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 6回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容：医薬品の適正使用、抗がん剤等の取り扱いなど 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (有・無) ・ 業務の主な内容：常備薬の管理状況調査及び各部署による自己評価 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 後発品切り替え品目に先発品名を付記 ・ 取り扱いに注意が必要な薬剤に対する薬袋のコメント表記による注意喚起 ・ ランマーク皮下注の適正使用情報発布に対する院内周知 ・ ランマーク皮下注による低カルシウム血症の情報提供 ・ オキファスト注採用に伴う麻薬換算比の情報提供 ・ ホストイン注採用に伴うアレビアチンとの比較・換算比の情報提供 	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年65回
<p>・ 研修の主な内容： 血液浄化装置、輸液ポンプ、シリンジポンプ、人工呼吸器、経皮的人工心肺補助、除細動器についての使用方法、注意点、管理方法について</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容： 医療機器配置場所の職員と臨床工学技士とで連携をとっている。日常点検の他に、機器によって臨床工学技士による定期点検、メーカーによる定期点検を行う。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： 各種医療機器の稼働率調査 日常点検の実施 臨床工学技士による定期点検の実施・点検状況の把握 医療安全管理室ニュース（医療安全、感染と連携）の定期発行 修理・故障報告件数・内容のデータ管理 使用マニュアルの改訂 出張勉強会の実施 PMDAへの報告</p>	